

第3回文楽観賞会の実施報告

3回目となる「文楽鑑賞会」を、11月8日（金）に開催致しました。

今回は、国立文楽劇場開場40周年記念として、人形浄瑠璃三大名作の1つである、『仮名手本忠臣蔵 第1部』を鑑賞しました。朝晩は少し冷える季節となりましたが、演劇好きの会員9名が参加されました。



文楽は、太夫・三味線・人形遣いの「三業」で成り立つ三位一体の演芸で、男性によって演じられます。客席の上手側に張りだした演奏用の場所「床」で、太夫と三味線弾きが、浄瑠璃を演奏します。40周年記念講演ということもあり、人形遣いには何人かの人間国宝、大夫は切語り（重要な場を語る太夫に与えられる最高の資格）と、現在の文楽界オールスターの配役陣でした。

今回の座席は、「床」の近くであったため、大夫の語りを間近で見ることが出来ました。特に、人物の心情を言葉の一音一音に思いを込めて語る姿はとても迫力があり、舞台と対比しながら見る事が出来より、迫力がありました。特に、悪役を演じた時の大夫は、悪役そのものでした。

また、「殿中刀傷の段」と「判官切腹の段」では、動と静の全く違った文楽を堪能できました。

第1部だけの（4時間を超える上演のため）の鑑賞となりましたが、第2部の内容が気になりながらの帰路となりました。



参加者の皆さん

有賀清隆さん、入田泰壽さん、友國健司さん、
酒本 猛さん、友國健司さん、東端幸雄さん、
森洋子さん、湯浅忠さん、吉田達司

（報告：吉田）